

～輝きの子育て～

時代は変わる！

今月は子育てとは大きく離れた話題になります。

まわるまわるよ、時代は回る・・・と歌った中島みゆきは一昔前の話でしたが、今年を境として日本は変わり復活をとげると予想をしてみました。あくまで私の独断ですが…。

その根拠は米国大統領にトランプ氏の就任と日本の30年の停滞の原因が排除されつつあることです。

I. トランプ大統領の就任

大統領は選挙で圧勝しました。新自由主義という旗印のもとに歩んできた米国社会は、格差が拡大し、弱肉強食の社会になり、負け組といわれてきた人々がトランプ氏に变革の望みを託したことが圧勝につながったと思います。

トランプ氏は米国を偉大にするために、従来の価値観を大きく変えるため「敗者」が「強者」に入れ替わるような施策を相継いで出すことでしょう。

一方、対外活動は、ウクライナ戦争、中東戦争を早く終わらせ、中国と本格的に対峙にしたいと思います。

エマニュエル・トッド（人口学者＝西洋の敗北の著者）によれば「米国の産業力の低下はプロテスタント精神による勤勉な労働意欲、道徳規範が失われた結果である。宗教無き虚無主義が巣くった『トランスジェンダーのイデオロギー、取りつかれたような環境保護主義』の価値観で世界の大半の国の価値観とはかけ離れている」

この米国の価値観を反転させる流れを作っていくと思われれます。

II. 日本復活の条件が整う

(1)米国が本格的に中国潰しに腰を入れる時は、日本は手放せられない同盟国として扱われることとなるでしょう。

過去、米ソ対立（東西冷戦）時には、日本列島を浮かぶ空母とみなし日本を応援して来ました。冷戦が終わった時、強くなってしまった日本が邪魔になり半導体、コンピューターを中心に日本叩きを行い日本の優位性を陥落させ、バブル崩壊で日本は長い停滞に入った歴史があります。今後は、日本を強くせざるを得ない関係に入るでしょう。

(2)日本は小泉政権時代に米国からの圧力を受けた新自由主義を徹底することが出来なかった。リストラ、公的部門の民営化、能力主義、年功序列の廃止は徹底されずに長い間培われた労働慣行が残された。そのため欧米の如く、格差はさほど小さくなく、リベラルな考えも大きく感

化されなかったと思います。このため、本来なら時代の変化について行けない企業、労働者が国の補助金という形で支援され残され長い停滞に入ってしまったと考えられます。

この「マイナス」が幸いなことに今後「プラス」に働き、日本復活を支えてくれるものと考えられます。今後、賃金の上昇は続くでしょう。円安効果で国内の設備投資は増えます。団塊の世代が後期高齢者になり、実業の世界から退き、老害がなくなります。停滞の原因になったマイナス部分の解消です。賃金が上がれば、生産性の低い企業は賃金が払えず市場から消えることとなります。政府のすべきことは補助金を企業再生には使わず、そこで働いていた人の他企業への移動支援に使われ、労働人口の流動性増大に寄与すべきでしょう。労働者、個々人の移動を支援する制度（例えば国営ビズリーチ）を整えることで、成長部門への労働移動が人手不足を補えることと考えます。

この制度で救えない人の社会保障を充実することも考慮しなければ、米国の二の舞になってしまいます。公的部門からの人の移動が一番の問題となるでしょう。

III. 日本復活の障害

大きく二つあります。日本列島特有の天災と中国の台湾侵攻です。天災は防ぎようがありません。いかに犠牲を少なくするかです。中国は経済が停滞し、若者の失業率50%に近いと聞きます。経済が停滞したままですと失業者は増え続け、これを吸収するには戦争への誘惑が生まれると思います。それは諸条件から考えて2027年でしょう。あと2年しかありません。

米国の準備が遅れることと、日本の防衛力増強が間に合わなければ、日本の存続は不可能となるでしょう。日本は防衛力強化と合わせ、戦争が起きない努力の両股をかけた取り組みが正念場になっています。

以上のように、大きな危機がなければ、日本は復活すると思います。

大きく時代が動くとき、時の流れに身をまかせるもよし、時代を読んで、自己実現のため門をあけ努力するも各人の選択になるでしょう。

片野 英司



参考文献

「フォーキャスト 2025」 藤井 厳喜
「世界秩序が変わるとき」 斎藤 ジン
「西洋の敗北」の書評 エマニュエル・ドット
「文藝春秋」2月号